

PROGRAM NOTE

2015年7月

アンテナを木に結びつけて放送再開

ネパール地震レポート

リーチビヨンド 宣教師 Steve Balzer

ネパール地震の被災地に派遣されたリーチビヨンド・オーストラリアのエンジニア Steve Balzer 宣教師からの現地レポートをお伝えします。

ネパールで大地震が発生したことをニュースで知り、リーチビヨンドでは、すみやかに緊急援助隊を現地に派遣しました。すでにネパールには2008年から現地の人たちによるローカルのミニFMラジオ局を開局する働きがすすめており、今年の春には8番目のコミュニティ局が開局したばかりでした。世界の屋根といわれる高山地帯の厳しい自然環境のなかで生活するネパール人のおよそ半分の人たちは読み書きができません。それだけにヒマラヤ山脈の山あいに住む人たちにとってラジオは欠かせない情報源となっているのです。



ネパールに着いて私たちがまず目にしたのは、地震による家屋倒壊のすさまじさでした。周辺は見渡すかぎり地震でこわされた家屋の瓦礫の山。その間で被災した人々が着のみ着のまま」で何とか雨露をしのいでやっと生活しているありさまでした。とりあえず、私たちはリーチビヨンドがつくった放送局の安全を確認することからはじめました。幸い、4つの放送局はいずれも地震による建物の全壊からは守られていましたが、地震当日、放送局にはいなかつた地元のアナウンサーがふたり自宅で亡くなっていました。

最初にたずねた放送局はビルの中の部屋をスタジオにしていましたが、地震でビルが損傷したため、余震のおそれもあるので早急に別の場所に移すことにしました。ちょうど中国の赤十字社から避難者用テントがとどいたので、その中に仮スタジオを設置、送信アンテナは外の大木の幹にしばりつけて放送を再開させました。その場所から2時間ほど離れた別の町の放送局にも出かけて損傷箇所を修復して放送再開にこぎつけました。



現場で地震の惨状をみた私は率直に言って、ラジオよりもっと他に緊急に必要とされるものがあるのではないかという気持ちでした。しかし、自分たちが被災しながらもほかの困っている人たちに放送で助けようとしている姿をみて考えが変わりました。ラジオができると、いや、ラジオでなければできないことがあったのです。災害時にラジオは貴重です。緊急時の情報伝達は命綱です。被災地で早急に必要な物資は何か、怪我の手当をしてくれる救急クリニックはどこか、飲水はどこでもらえるのか、道路状況も天気予報も、家族の消息やほかの地域の被害状況などをラジオが伝えてくれることで、人々がどんなに助かるか知れないので。また、個人的にあたたかく語りかけ励ましてくれるラジオが、暗闇に閉ざされたような環境のなかで、どんなに人々のこころを慰め、希望の光をもたらしてくれるか知れないので。

ネパールの被災者家族のために祈りください。これからもモンスーン・シーズンを乗り越えるころができる安全な住いが確保できるように。現地の放送局が被災者のために役立ち、ともにこの苦境を切り抜けることができるよう。どうか、心をあわせて「とりなしの祈り」をささげていただきたいと思います。ネパールの人たちが新しい希望の朝を迎えることができるよう！

サタデー・トーク

バイブル・トーク

きき手尾崎一夫

毎週土曜日放送

淀橋教会 峯野龍弘主管牧師 毎週日曜日放

7月04日	リーチビヨンドは今（クヌヌラ送信所&ネパール報告）	7月05日	聖書の見所をたずねて：聖書遊覧バス（91）
7月11日	エクアドル東部：アマゾン・ジャングルに行く（1）	7月12日	聖書の見所をたずねて：聖書遊覧バス（92）
7月18日	エクアドル東部：アマゾン・ジャングルに行く（2）	7月19日	リスナーからの「お便り交換の時間」
7月25日	エクアドル東部：アマゾン・ジャングルに行く（3）	7月26日	聖書の見所をたずねて：聖書遊覧バス（93）

放送後の番組は、ホームページ(<http://japanese.reachbeyond.org>)のトップページ左側メニューにある『インターネット放送』のリンクページからお聴きいただけます。（mp3形式）

放送時間：日本時間 午前7時半～8時 17760kHz (再放送) 午後7時55分～8時25分 15400kHz
(米国アリゾナ州制作／オーストラリア送信)